

【ひだかプラン】「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

日高管内における授業実践の映像資料に基づく改善方策【中学校理科「酸化と還元」】



学校教育に
求められること

- 「知識及び理解が習得されるようにすること」「思考力、判断力、表現力等を育成すること」「学びに向かう力、人間性等を涵養すること」が偏りなく実現されるよう、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、生徒の**主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善**を行うことが求められています。(学習指導要領(平成29年告示)より)
 - 生徒が**各教科等の特質に応じた見方・考え**方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ることが求められています。
- ⇒【理科の見方・考え方】自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの**科学的な視点**で捉え、比較したり、関連付けたりするなどの**科学的に探究する方法を用いて考えること**



「何を学ぶか」
～指導事項が明確な授業～

- **育成を目指す資質・能力**
身に付けさせたい力を育成するために、生徒が**学びを積み重ねていく過程を構築**することが重要です。単元全体の中で、それぞれの授業がどのような位置付けにすると効果的か、授業のつながりを考え、観点ごとに評価規準とそれを達成するための**学習活動のバランスを考**えることが大切
R2手引P23【視点1】2
- **ICT機器の効果的な活用**
ICT機器を活用することにより、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を簡潔に伝えるとともに、**本時の学習内容を焦点化**することを通じて、「何ができるようになるか」という観点においてもぶれない軸をもつことが大切
R2手引P25【視点3】2
- **自己肯定感を高める**
生徒の考えを引き出し説明させる場を位置付け、よさを発揮させることにより、**自分のよさや可能性を実感させる**など、自己肯定感を高める指導の工夫をすることが大切
R2手引P28【参考】3

① **必要感のある学習課題**
教師主導の課題設定ではなく、既習事項や生徒の実生活における疑問や気付きから生まれる**必要感のある学習課題の設定**となるよう工夫することが大切です。

□ **考えを広げ、深める学習活動**
一問一答で正解を発言させるだけの発問ではなく、「なぜそのように考えたのか」「どうして正しいといえるのか」を問い返すことを通じて、**根拠を基に説明させたり、筋道立てて説明させたり**するとともに、一つの考えから他の生徒の思考へとつなげ広げるなど、発問を工夫することが大切です。
R2手引P25【視点3】1

② 「どのように学ぶか」 R2手引P3～4
～主体的・対話的で深い学びを実現させる授業～

□ **学習指導要領解説理科編で確認**
【主体的な学び】
・自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって課題や仮説の設定をする。
・観察、実験の計画を立案をする。
・観察、実験の結果を分析し解釈して仮説の妥当性を検討する。
・全体を振り返って改善策を考える。
【対話的な学び】
・課題の設定や検証計画の立案、観察、実験の結果の処理、考察の場面では、あらかじめ個人で考え、その後、意見交換したり、科学的な根拠に基づいて議論したりして、自分の考えをより妥当なものにする。
特に若手教員は、各教科等の学習指導要領解説から、授業改善の視点を明確にすることが大切です。

□ **自己調整する力を高める**
間違えた解答について、「どの部分が間違いなのか」「どのように考えるとよいのか」を生徒に考えさせ説明させる場面を設定し、間違いをおそれず課題解決に挑戦したり、自らの学習過程を評価して改善したりするなど、**自らの学びを調整しようとする力を伸ばす**という視点をもつことが大切です。

□ **見通しと振り返りの充実**
課題解決に向けてどのように取り組むとよいかなど、学習の見通しをもたせたり、何ができるようになったかなどを振り返らせたりすることが大切です。

③ 「何ができるようになるか」
～ねらいと評価規準を明確にした授業～

□ **授業改善の推進【深い学び】**

学びの深まりをつくり出すために、生徒が考える場面と教師が教える場面を効果的に組み立てる。

自ら学びに向かう意欲を高めるためには、学習内容を**既習の内容や実生活・実社会と関連付けながら深く理解**させ、他の学習内容や生活の場面において、**学んだことを活用させる**ことを通じて、もっと知りたい、分かるようになってほしい、できるようになりたいと感じさせることが大切です。
「**見方・考え**方」を習得・活用・探究という**学びの過程の中で働かせる**ことを通じて、より質の高い深い学びにつなげることが重要です。